

江南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

【目指す区のすがた】 I. 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

目指す区のすがた実現に向けた取組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p>1 都市機能の向上</p> <p>(1) 道路網の充実を図るため、新潟中央環状道路の整備や交通渋滞の解消に向けた道路整備など円滑な交通体系を整備した。また、交差点のカラー舗装化など安心安全に通行可能な道路整備を行った。</p> <p>(2) 公共交通のさらなる利便性向上を図るため、区バス・住民バスの運行内容を見直したほか、住民バスの試験運行を実施し、公共交通の充実に努めた。また、新たな駅の設置について土地区画整理組合準備委員会とパークアンドライド施設を備えた新駅周辺施設整備について調整を図った。</p> <p>(3) 計画的な土地利用に向け、中央卸売市場周辺地区土地区画整理事業への指導・助言、技術支援や二本木地区における土地区画整理組合設立に向けた支援を行った。また、人口減少や高齢化する農村集落の維持活性化を図るため、開発許可に関する条例や田園集落づくり制度などを活用することで、定住人口を確保し、農村集落の維持活性化を図った。</p> <p>2 憩いの空間づくり</p> <p>(1) 水辺空間の活用を図るため、平坦な地形特性と阿賀野川、小阿賀野川、信濃川など水と緑のネットワークを形成する資源を活用し、整備したサイクリングロードの利用を促進する「いい汗いい食江南健幸ライド」を開催した。</p> <p>(2) 公園の整備や安全に利用可能な公園施設を保持するため、巡視・点検に努めるとともに、亀田公園などで遊具の更新を行った。また、避難場所指定公園の和式トイレを洋式化し、防災機能などの多様な目的に対応した公園整備を行った。</p> <p>(3) 環境保全に向け、地域要望に合わせた啓発看板の作製と配布、クリーンにいがた推進員による不法投棄防止パトロールの実施したほか、下水道の汚水管きよの整備推進を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関などと連携し、交通渋滞の解消や安心・安全に通行できる道路を整備するため、予算状況等を踏まえながら計画的に整備を進めている。 区バス・住民バスともに運行計画の柔軟な見直しを行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、区バス・住民バスの乗車数が減少し、コロナ禍以前に回復していない。 二本木地区では、土地区画整理事業の実現に向けて、土地利用計画の検討などの取り組みを進めている。 新潟市開発行為等の許可の基準に関する条例による開発許可件数が8区中1位(条例運用開始～R2年度)であり、引き続き定住人口を確保していくことで、集落活性化を図る。 環境保全への意識向上が進んでいる一方、ごみの分別が徹底されておらず、引き続き啓発が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費の増大や税収等の増加が見込めない中、道路や公園などインフラが老朽化し、維持管理・更新費用の増大 人口減少に伴う輸送需要の減少など現状の輸送サービス維持が困難になる恐れ 既成市街地の空き地・空き家等の低未利用地が時間的・空間的に発生する「都市のスポンジ化」や低密度化が進展

江南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

【目指す区のすがた】 II. 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

目指す区のすがた実現に向けた取組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p>1 いつまでも安心して安全に暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 地域防災力の強化を図るため、自主防災組織結成の促進、地域防災訓練への支援、ジュニアレスキュー隊育成講習会などを実施した。 また、ハザードマップなどによる危険箇所の周知、にいがた防災メール登録の勧奨など災害情報の伝達手段や入手方法の周知を図った。</p> <p>(2) 犯罪の起こりにくい環境づくりに向け、青色パトロールカーによる防犯パトロールや関係機関と連携した街頭啓発活動などを実施した。 また、交通事故の起こりにくい環境づくりに向け、保育園・小学校を中心に交通安全教室の開催、朝の通学時に街頭指導を実施し、区民の交通安全意識の向上を図った。</p> <p>2 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり</p> <p>(1) ずっと安心して暮らせる地域づくりに向け、地域の茶の間の開設など地域資源を活用した支え合いのしくみづくりを整備したほか、共生のまちづくりに関する取組みを推進するため福祉、商業、行政等関係機関による「江南区共生のまちづくり推進連絡会」を設置し、課題解決に向けた検討、事業を実施した。また、健康寿命延伸を図るため、食生活改善推進員・運動普及推進員を中心としたイベントや講座の開催など地域の中で身近な健康づくりを推進した。</p> <p>(2) 子どもを安心して産み育てられるまちづくりに向け、安産教室の開催、育児相談を開催したほか、亀田東児童館や子育て支援センターなどを通じて子どもの居場所づくりや親子でふれあえる場を提供した。また、子育て応援団の登録により、地域全体で子育てを見守る機運の醸成を図るとともに、父親の育児参加に向け、パパノートなどを作成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の結成は一定程度促進されたものの、直近の結成数(結成率(世帯数比))が停滞している。 H27当初 :66 団体(68.8%) R3 当初 :79 団体(80.0%) ・災害時における円滑な避難所運営体制を構築するため、平時からの避難所運営委員会の立ち上げを推進している。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から保育園などで交通安全教室実施回数が減少した。(開催回数 R1 59回 → R2 42回) ・障がい者への理解促進を図るため亀田駅などで「障がい者アート展」を開催し、好評を得た。 ・障がい者が地域で安心して暮らせるためには、福祉、教育、商業、農業など、幅広い分野において関係機関が連携して取組みを推進する必要がある。 ・パパノートに関するアンケートでは、回答者の8割から「役立つ」との回答があり、内容の見直しを行うなど、男性の子育て参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨など自然災害の激甚化・頻発化 ・人口減少に伴う地域の防災力の低下 ・団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢者が増加 ・団塊世代が85歳以上となり、特に医療・介護ニーズが高まる(介護人材が不足) ・認知症高齢者の増加 ・1980年代から1990年半ばに開発された宅地では一斉に高齢化が進み地縁に頼ることが困難に

江南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

【目指す区のすがた】 Ⅲ. 創造的な産業を育む活力のあるまち

目指す区のすがた実現に向けた取組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p>1 創造的な産業の育成</p> <p>(1) 農業の振興を図るため、地域での話し合い活動の推進や農地中間管理事業を活用し、担い手への農地の集積・集約化したほか、化学合成由来の肥料や農薬の使用量の低減を進め、環境にやさしい持続可能な農業を推進した。また、豊かな農産物を身近に感じることができる江南区の特性を活かして、区民がより「農」に親しめる機会を提供した。</p> <p>(2) 新たな産業の創出や区特産農産物を活用した加工品開発や販売PRのため、地域や商工業者、市民グループなど多様な市民の提案による区農産物を活用した新たな特産品の開発を支援したほか、地域産業のPRのため、江南区旬果旬菜いきいきフェスタを開催した。また、特色ある地場産業である亀田縞について、独自に国内や海外販路拡大に向けた取組みを支援したほか、あらためて地域での活用を目指し、地元での知名度向上を図った。</p> <p>市内経済の活性化及び魅力的な雇用の場を創出するため、新たな工業用地として開発する全8地区のうち、区内に4地区が立地することが決定し、早期実現にむけた取組みを関係課と連携して取り組んだ。</p> <p>2 活力と賑わいのあるまちなかの創出</p> <p>(1) まちなかの活性化と交流人口の拡大を目指し、まちなか商業活性化計画に基づき、亀田三・九の市との連携による「かめだサンキューマルシェ」の開催や商店街での空き店舗開業を支援した。また、まちゼミ、わく灯籠祭りなどの商工団体や商店会による独自イベントを支援した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手への農地の集積・集約化に向けた地域での話し合い活動や、農地中間管理事業を実施する地区は着実に増えてはいるものの、十分とは言えない状況である。担い手を確保し、持続可能な地域農業の実現のため、取組みをさらに加速させることが急務となっている。 ・新型コロナウイルスの影響により、海外市場への亀田縞の拡大が難しくなっていることから、内需を喚起するため利活用の幅を広げる工夫が必要。 ・地域の核として商店街が持つ、コミュニティの担い手としての役割(安心安全、福祉、子育て、歴史の伝承など)の重要性から、商店街の存続、維持への支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力人口の減少（女性、高齢者の就業の増） ・農業従事者の高齢化の進展、減少による地域農業の衰退 ・AI・ロボット技術の活用、デジタル化の進展 ・兼業・副業、フリーランスなど働き方のニーズが更に多様化 ・テレワーク（在宅勤務、サテライトオフィス勤務等）など場所を選ばない働き方への変容 ・(新型コロナウイルス感染症の収束が前提) 訪日外国人の増加

江南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

【目指す区のすがた】 IV. 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち

目指す区のすがた実現に向けた取組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p>1 地域と共に創る子どもたちの未来</p> <p>(1)生涯にわたり学びの機会を提供するため、小学生の休み期間に体験学習を提供する子ども体験事業や防災教育、学校との連携による事業などを実施した。</p> <p>(2)学・社・民の融合による教育の推進を図るため、地元の祭りへの参加といった地域との交流事業やゴミ出しボランティア、清掃活動などの地域への貢献事業など地域と共に歩む学校づくりを推進した。また、学校ボランティアによる活動内容などの周知やボランティアを募集するパートナーシップ事業通信を発行した。</p> <p>(3)家庭教育への支援を図るため、乳児期、幼児期、児童期思春期の家庭教育学級の開催や子育て情報誌「カムかめねっと」発行、子育てサロンなどを開催した。</p> <p>2 文化が花開きスポーツの盛んなまちづくり</p> <p>(1)文化の振興・文化の創造を図るため、プロポーザルによる著名人の公演、演劇コミュニケーション講座の開催、新潟明訓高等学校ダンス部公演の開催など、効果的・効率的な自主事業の実施、文化・芸術に親しむ機会を提供した。</p> <p>(2)歴史や伝統の継承に向け、江南区郷土資料館での企画展や歴史講座の開催、区内小学校を対象に地元の文化・歴史を体験学習できる機会などを提供した。</p> <p>(3)スポーツ活動の支援・振興を図るため、健康ウォークやフロアカーリング大会等の区民参加型スポーツイベントの開催や区内スポーツ少年団及びクラブの紹介、スポーツ振興に寄与した方々の表彰などを実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「SNSによる人権侵害」や「ゲーム依存」の問題など子どもが直面している社会課題に沿った講座の開催や高齢者の能力を高め、社会参加を促し、地域コミュニティを維持発展させるような好循環を生み出す学習機会の提供などが求められている。 ・学校支援ボランティアの延べ人数(区内1校当たり年間)では、5年間で約1.7倍に増加し、周知活動は一定の成果をあげている。 ・子ども達を取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化していることから、保護者・地域・学校が連携し、地域の豊かな未来を実現していく「コミュニティ・スクール」を推進し、令和4年度に市立小中学校に学校運営や課題に対し、保護者や地域住民が参画できる「学校運営協議会」を設置する。 ・中学生に向けた、郷土の歴史や伝統を学ぶための機会の提供が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴う小・中学校の統廃合の進展 ・リカレント教育の定着、デジタル化の進展など学び方の変容 ・人口減少、少子化による伝統文化の継承が困難になる

江南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

【目指す区のすがた】 V. 区民がまちづくりの主役として輝くまち

目指す区のすがた実現に向けた取組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p>1 区民と共に歩む協働のまち</p> <p>(1) 区自治協議会との協働を図り、江南区誕生 10 周年記念事業を実施し、区の一体感の醸成を図ったほか、区民の意見がより反映されるよう特色ある区づくり予算の委員意見反映の仕組みの見直しなど、区自治協議会と連携し、地域課題を解決に向けた事業に取り組んだ。</p> <p>(2) コミュニティ活動への支援するため、地域コミュニティ協議会会長会議、事務担当者会議の開催や地域活動への補助などを実施した。 また、曾野木地区の市営住宅跡地は、地域活動の拠点となるコミュニティ施設と近隣の老朽化した市立保育園 2 園を統合した新たな保育施設を建設し、民間活力を最大限活用し、施設建設に着手した。</p> <p>2 区民の声を大切に作る区役所づくり</p> <p>(1) 親しまれ信頼される区役所に向け、江南区サービス憲章を各職員が日頃から遵守するとともに、区民の視点に立った窓口の改善、案内表示などの改善などの取り組みを行った。</p> <p>(2) 広報・広聴の充実を図るため、区役所だよりの発行、江南区フェイスブックでの情報発信、新潟市公式 LIME での広報を実施したほか、区長への手紙、区長懇談会を開催するなど、区民の声を幅広く聴く機会の充実に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会の認知度は低下、自治協議会の認知度はほぼ横ばいとなっている。※設問変更により、単純比較できないことに留意 ・活動拠点が無いコミ協があるほか、自治会介入率の低下など地域力が低下している。 ・新聞購読者の減少により、区役所だよりの発行部数が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未婚者の増加や高齢化に伴う単身世帯の増加 ・外国人住民の増加 ・公共施設の統廃合に伴う集約化・複合化の進展